

第3回 調布飛行場整備検討会

インタビュー等結果②

令和7年3月

1. インタビュー等の概要

インタビュー等の概要

(1) 調査目的

- 今後の調布飛行場に求められる役割と必要な機能を検討するため、飛行場関係者に対し、面談によるインタビューまたは、記入式のアンケートにより意向を把握する。

(2) 意向聴取内容

- インタビューは、以下の質問内容を基本とし、各事業体、自治体・住民等の属性に応じた設問とした（詳細は、インタビュー等内容まとめを参照）。
 - 調布飛行場に求める機能と役割
 - 調布飛行場の整備に当たっての要望

インタビュー等の概要

(3) 調査対象者及び実施日

No	分類	小分類	名 称	実施日	調査方式
1	地元自治体・住民	1-1 地元三市役所	三鷹市・府中市・調布市	－	アンケート
		1-2 周辺住民	各自治体等 三鷹市：5団体 府中市：3団体 調布市：6団体	12/25～ 2/21	面談
2	空港管理・運用者	2-1 管理事務所	調布飛行場管理事務所	12/11	面談
		2-2 運航支援業務受託者	(一財)航空機安全運航支援センター	12/10	面談
3	空港利用者 (事業者等)	3-1 定期便運航事業者	新中央航空(株)	12/11	面談
		3-2 航空機使用事業者	調布空港協議会	12/10	面談
		3-3 給油事業者	石野礦油(株)	12/11	面談
		3-4 自家用機所有者	自家用機所有者	12/4	面談
4	空港利用者 (定期便利用者)	4 空港利用者	大島空港・新島空港・神津島空港・三宅島空港・調布飛行場利用者	12/13～1/13	アンケート
5	その他	5-1 島しょ振興	(公財)東京都島しょ振興公社	12/13～ 3/5	面談・ アンケート
		5-2 庁内関係部局	総務局・都市整備局・環境局		
		5-3 周辺商業施設開発事業者・周辺事業者等	三井不動産(株)・ 東京外国語大学・ 京王電鉄バス(株)・小田急バス(株)		

2. 属性毎のインタビュー等 内容まとめ

- ※ 長文にわたるご意見等は、その趣旨を踏まえ抜粋している
- ※ 本検討会の所掌外の内容（例：飛行場の日常管理など）については、記載していない
- ※ 同じ趣旨のご意見は、集約して記載している

インタビュー等内容のまとめ（1/13）

- No. 1 地元自治体・住民；1-1 地元三市役所（三鷹市・府中市・調布市）
 - 飛行場の存立の歴史的経緯を踏まえた対応を要望
 - 安全・騒音対策を十分行うことを前提に、災害対策等への活用に期待

設 問	回答内容
1. 調布飛行場に対する印象	• 住宅密集地に所在する空港であることから、安全面について強い懸念があり、地域の理解、協力の上成り立っている。迷惑施設として捉えている市民が多いのも事実 • 事故リスクや騒音へのより一層の対応が必要。特に、平成27年に起きた自家用機の墜落事故により、安全対策の更なる徹底が求められている。 • 航空路は島しょ部との移動や活性化のために重要な手段。防災・医療・消防などの緊急活動や航空測量などの地域航空の拠点 • 非常時には物的・人的な空輸拠点となり得ることから、広域的な防災拠点としての活用に期待
2. 調布飛行場の位置づけ	• 歴史的経緯を経て現在に至っている。 • 周辺地域との共生が求められる施設 • 今後リニア新幹線の開業に伴う橋本方面からのアクセスの良さを生かし、地域のにぎわいを生み出すことを期待 • 島しょ住民にとって重要な生活の足としての公共性を有する施設 • 定期便の就航を通して、島しょ及び地域の経済の活性化に資するものと期待
3. 調布飛行場周辺の土地利用計画動向/開発動向	• 大沢総合グラウンドの改修・整備（令和7年度） • 飛行場北西側の都市整備用地に、大型商業施設の開業を予定（令和11年春）

インタビュー等内容のまとめ（2/13）

・No.1 地元自治体・住民；1-1 地元三市役所（三鷹市・府中市・調布市）

設 問	回答内容
4. 調布飛行場に期待する役割、改善点	- 安全・騒音対策のより一層の徹底 - 地域に親しまれる拠点としての役割 （地域向けイベントの開催、市民の交流の場、公園・広場など憩いの場の提供など） - 地域活性化、にぎわい創出の役割 （島しょ物産展などのイベント実施、交通利便性の向上など） - 防災拠点としての役割 （災害時の機能確保、受援体制の整備、地元自治体が利用可能な倉庫の設置など） - 空港の脱炭素化（太陽光パネルの設置など） - 自家用機分散移転の早期実現
5. その他	- 都と市で取り交わした協定書・覚書の内容の遵守や、飛行場整備方針等に位置付けられた内容の着実な履行を依頼する。 - 地元住民に寄り添い、地元三市と連携しながら、安全を第一に、地域から親しまれる施設とすることを期待

インタビュー等内容のまとめ (3/13)

• No. 1 地元自治体・住民；1-2 周辺住民（三市自治会計14団体）

- 飛行場に対して正負両面の印象を持たれている。
- 防災面での活用や、利便施設の誘致、島しょ地域との交流面で期待する意見がある。

設 問	回答内容
1. 調布飛行場に対する印象	• 近くにありながら利用することがなく、行くことがない。あまり親しみがでない • 戦中時代の飛行場のイメージ。 • 定期便が運航されているのは知っているが、それ以外に測量のための事業機などが運航されているとは知らなかった。定期便もPR不足なのでは。 • 飛行場まつりが開催されなくなってから、地域と疎遠になってしまっている感じがする。 • 飛行機に乗らないのにターミナルに入って良いのかどうかわからない（入りづらい）。 • 飛行場でまちが（物理的に）分断されてしまっている。 • 定期便のチケットが高そう。便数が少ないのでは。 • 緑深く、閑静な飛行場として有利な面もある。四季の移ろいを感じられる。 • ローカルで親しみやすい。空の玄関口となっている。飛行機好きがよく写真撮影している。 • 同じ都民である島民の生活を支えている意義は理解する。誇らしいと思う。 • 歴史的経緯があり、地域として飛行場と共存していくことを受け入れてきた。存在を認めて活用していくべきでは。飛行場は地域の財産 • 市街地にある飛行場なので安全面には不安を感じる時がある。事故がないことを願う。 • 少なくなったが、空港が怖いという人はいる。安全対策を徹底させるべき。 • 武蔵野の森公園から見ていると、着陸時に頭上すれすれを通っているように感じる。少し恐怖心を覚える時がある。 • H27年の墜落は自家用機。自家用機は分散移転させるべきであり、それまでの安全管理を東京都が行うべき。 • 絶対安全というのはないが、都が厳しく管理しているのはわかっている。 • 事故以来の様々な取組によって、安全性は高いと感じている。 • 上空の飛行機の音がうるさく感じる時がある。 • 部屋の中にいれば、音は気にならない。離発着の回数も少ないし、日没後は飛ばない。

インタビュー等内容のまとめ（4/13）

・ No. 1 地元自治体・住民；1-2 周辺住民（三市自治会計14団体）

設 問	回答内容
2. 調布飛行場の利用の有無	・ 周辺の公園（武蔵野の森公園）を散歩したことがある。日の出を周辺の公園の丘から眺めたことがある。 ・ 遊具ひろばで子供と遊んだことがある。遊具がある公園はここ以外周囲にあまりない。 ・ 大沢グラウンド通りの桜並木に花見に行く。 ・ 業務、旅行、島しょ地域のイベント参加（椿まつりなど）で定期便（大島、三宅島）を利用したことがある。 ・ 飛行機で離島に行くことがない。
3. 調布飛行場に期待する役割、改善点	・ 飛行場受入れ条件の遵守や、適正な運用を行うことは前提 ・ 難しいとは理解するが、自家用機の分散移転を進めてほしい。公的な機体に利用を限る。 ・ 安全面の強化、飛行場ルールの遵守の徹底に取り組むことを望む。飛行場の設備や、航空機を新しい安全性の高いものに入れ替えていくことは異存ない。 ・ 事故を起こさないのが最重要。地域の人々が心配なく安全安心な飛行場にすべき。 ・ 都の取組を直接聞く機会がない。飛行場の信頼確保について、もっと都の取組をアピールするべきでは ・ 災害時対応にはヘリポートだけで十分なのでは。飛行場の移転を考えてほしい。 ・ 騒音が小さい航空機に更新していったほしい。島しょへの便がなぜ市街地から飛び立たなければならないのか。 ・ 難しいと思うが、路線の拡充（名古屋、松本、八丈島） ・ 空の玄関口として、島の生活利便性の向上に貢献。航空路があることで島を近くに感じる。島の方々の様子を知る機会が欲しい。島の方とも交流できないか。 ・ 災害時に住民の救助等の役割を望む。南海トラフなど、広域災害の時にも拠点となる。 ・ 近隣住民が気軽に見学・体験等できるようなイベントをしてほしい。 ・ スポーツやイベントなどで市民が楽しめる場所 ・ 緑化の推進・緑地帯の設置

インタビュー等内容のまとめ (5/13)

・ No. 1 地元自治体・住民；1-2 周辺住民（三市自治会計14団体）

設 問	回答内容
4.調布飛行場を整備する際に実現してほしいと思うもの/こと	・ 防災のため、常備備蓄を行うための倉庫に加えて、救援物資を受け入れるため普段は空にしておく倉庫を整備する。 ・ 防災拠点として農地を作る。 ・ 核シェルターを作り、平時はそこに備蓄を行う。 ・ 周囲の公園や商業施設、スポーツ施設とタイアップしてイベントができないか。 ・ ターミナルを滑走路の西側へ移転して、周辺施設と一体化できないか。 ・ 地域の住民が気軽に利用できる、小規模なホールや貸し教室 ・ 周囲を散歩するときに休憩場所となるような場所を提供してほしい。 ・ 飲食（伊豆諸島の新鮮な魚介類を活用することも考えられる）や物販など、周辺地域からも親しまれる施設が欲しい。羽田空港などには食事で行く人もいるだろうが、調布はそうになっていない。デベロッパーの力を頼れないか。 ・ 周辺にはスーパーが少ないので、物販施設があるとよい。 ・ 島しょの特産品などを活用し道の駅のようにすれば、人を呼び寄せることができ、地域が活性化する。 ・ 島の新鮮な朝どれ海産物を航空輸送して、本土に卸す取組を強化できないか。 ・ 全国の農道空港と連携して、生鮮品を輸送する。 ・ 島しょ地域の特産品（「くさや」や島酒など）を購入できる店舗がほしい。島の魅力が伝われば、島に行きたいという人も増えるのではないか。 ・ 店舗を設けるのであれば、地域住民には割引サービスをしてもらえないか。 （次頁へつづく）

インタビュー等内容のまとめ（6/13）

・ No. 1 地元自治体・住民；1-2 周辺住民（三市自治会計14団体）

設 問	回答内容
4.調布飛行場を整備する際に実現してほしいと思うもの/こと	（前頁からのつづき） ・ 自治会などを対象とした空港見学の機会を設けられないか。 ・ フライトシミュレータを設置するなど、子供たちが飛行場を体験し学べる場所となるとよい。遊覧飛行などもできれば面白いのでは。 ・ 横田基地の友好祭、府中刑務所の文化祭のような祭りを飛行場でもできないか。頻繁に祭りを行えるとよい。 ・ 飛行場まつりを再開できないか。過去行われていたまつりは、島しょや飛行場のPRだけでなく、近隣の方への恩返しも目的の一つだったはず。墜落事故もあり住民感情があるのは理解する。ただ、事故を契機に消極的になりすぎているのではないか。 ・ 島の住民と交流できるようなイベントがあるとよい。 ・ 飛行場まつりを再開するにしても、安全対策や飛行場運用ルールの遵守の徹底が前提となる。 ・ 物産展を開催していることは地域に知られていない。回覧板、マスメディアを活用して広報すべきでは。 ・ 飛行機の離着陸を見て楽しめる空間の整備 ・ 夕日が見れる足湯があるとよい。 ・ 武蔵野の森公園とタイアップしたミニ花火大会の開催 ・ 遊具ひろばをもう少し大きくしてもよいのではないか。せっかくの飛行場なので、飛行機をモチーフにした遊具があるとよい。 ・ 滑走路をランニングできるように開放するなど、飛行場を活用した取組ができるとよい。 ・ 掩体壕などの歴史の証を残して、展示していく。 ・ 郷土博物館とタイアップしてはどうか。 ・ 地域の方が親しみを持てるように愛称をつけてみてはどうか？「調布新選組飛行場」など。 （次頁へつづく）

インタビュー等内容のまとめ（7/13）

• No. 1 地元自治体・住民；1-2 周辺住民（三市自治会計14団体）

設 問	回答内容
4.調布飛行場を整備する際に実現してほしいと思うもの/こと	（前頁からのつづき） • 住民の役に立つ施設が欲しい。 • 地域としてにぎわいが生まれるようなまちづくりが進められると良い。 • 公共交通の充実（三鷹方面、飛田給方面へのバス）、または、駐車場の充実 • シェアサイクルポートを、もっと密に置いてほしい。 • 定期便のダイヤに合わせてタクシーの発着があるので、交通の便はそこまで悪くないのではないか。

インタビュー等内容のまとめ（8/13）

- No. 2 空港管理・運用者 ；
調布飛行場管理事務所、（一財）航空機安全運航支援センター
- ターミナル地域の整備の際は、安全性向上を目的とした必要施設の整備も併せて期待

設 問	回答内容
1. 整備の方向性について	• 更に安全性を向上させる施設整備が望ましい • 迷惑施設というイメージを払拭する、親しみのある空間となると良い
2. 整備に当たっての要望事項、留意事項	• 管制塔は、飛行場全体を見渡せる位置・高さでの設置が必要 • 管制卓などの設備は経年劣化が進みつつあるので、航空の安全確保のために計画的な更新が必要 • 災害時対応が可能となるため、管理事務所内に寝泊まりが可能となるような仮眠室等の設備が必要 • 機体整備や台風時の待避のため、定期便などのための航空機の格納庫の整備を進めたほうが飛行場の安全性向上に寄与するのではないか。 • 空港利用者、空港内従業員双方の利便性向上のために、コンビニのような商業施設があるとよい。 • また、物産販売など島しょの振興、地元三市の振興につながる施策も必要 • 遊具ひろばは、親子連れや児童の利用が絶えずあり今後も確保してもらいたい。ターミナルビル、商業施設、公園が回遊性をもち親しみのある空間となるとよい。 • JR中央線からのバスルートがあると、職員の通勤が便利になる。

インタビュー等内容のまとめ (9/13)

- No. 3 空港利用者；
定期便運航事業者、航空機使用事業者、給油事業者、自家用機所有者
➤ 安全性・利便性の向上を目的とした施設整備に期待

設 問	回答内容
1. 現状の飛行場に対する印象	• 首都圏の地域航空を担い、また、伊豆諸島4島と本土を結ぶ重要な空港。航空路が島民の生活向上にも貢献している。 • 市街地の中にある飛行場として、航空機使用事業者は航空局の監督の下、特に安全に配慮して運航を行っている。なお、航空機使用事業者は、緊急時即応体制の構築などを目的に、社として飛行場周辺への居住を推奨している。 • 災害時には、広域防災拠点としての役割を果たす重要な空港 • 小型自家用機所有者が都内本土でフライトできる唯一の空港 • 過去の経緯があり、航空機の運用に制限をかけていると理解している。 • 地域の行事へ空港内の事業者が参加するなど、地元の理解を得る取組を行っている。
2. 現状の飛行場に関する改善点、要望事項	• 旅客定期便のダイヤ設定に余裕を持たせるため、運用時間の制限を緩和できないか。 • 更なる就航率向上のため、IFR（計器飛行方式）施設の強化が図れないか。 • 安全性の向上と騒音対策のためにも、離陸時だけでも滑走距離の延長運用ができるとありがたい（延長運用がされたとしても、大型機材を導入することは考えていない。）。 • 地震災害に備え、食料や燃料の備蓄機能の強化が必要ではないか。
3. 整備検討に当たっての留意事項	• 離島への旅客定期便の利用者は島民とビジネス客の比重が高く、生活路線として欠かすことのできない路線である。 • 今後の運航機については、各航空機メーカーにおいて開発が進められている、安全性、静粛性、環境性に優れた新機材へ入れ替えを進めていくと想定される。 • 災害時を想定した燃料の備蓄については、民間事業者として対応が難しい。行政側で施設整備や燃料保管のコストを手当てしてもらえる手立てはないか。

インタビュー等内容のまとめ（10/13）

- No. 3 空港利用者；
定期便運航事業者、航空機使用事業者、給油事業者、自家用機所有者

設 問	回答内容
4.調布飛行場を整備する際に実現してほしいと思うもの/こと	• 定期便運航事業者のための格納庫があれば、整備拠点（竜ヶ崎飛行場）への空輸の必要がなくなる。就航率の向上にもつながる。 • 定期便運航事業者の執務スペースの拡大。三宅島路線の開設や働き方改革などにより、社員数が増加したが、執務スペースは従前のままとなっており、手狭な状況である。 • 航空機使用事業者が各社で格納庫を所有することは、機体管理水準の向上により、安全性の向上にもつながるものである（空港機能の強化を目的としたものではない。）。 • 飛行場へのアクセスバスの増便/新設、ターミナルビル前の駐車場の拡張 • 定期便利用者のための、ATMやレストラン、売店があると、利便性が向上する。 • 空港は地元住民と島民の両方が楽しめる場所であってほしい。 • 空港と地元住民とが疎遠な関係となってしまうので、周辺と一体的かつ日常的に楽しめる空間とした方が良いのではないか。 • 航空機使用事業者の事業内容を展示する取組をしてはどうか。

インタビュー等内容のまとめ（11/13）

・No. 4 空港利用者；定期便利用者

➤ 飛行場へのアクセス性、空港施設の利便性向上に期待

設 問	回答内容
1. 現状の飛行場の課題点・改善すべき点	・ 交通アクセスの情報が分かりづらい。 島しょ地域のバスの情報が分かるようにしてほしい。 ・ 調布飛行場のアクセス性の向上（直通バスの増便、JR中央線方面からのバス路線開設、第一駐車場の拡張） ・ 利便施設がない（携帯電話の充電用電源、お土産が購入できる売店、飲食店） ・ 最近、機材事情の欠航が多い。 ・ 欠航・遅延の案内が航空会社職員の地声。拡声器や放送設備を使って案内いただきたい。 ・ 最終便の時刻の繰り下げ
2. 調布飛行場を整備する際に実現してほしいと思うもの/こと	・ アクセス性の向上 ・ 飛行場利用者の送迎用一時駐車スペース（30分ほど無料で止められると良い） ・ ターミナル内に飲食店やコンビニ、土産物店が入ること ・ コワーキングスペース ・ ラウンジ ・ 島しょ以外への航空路線の拡充（例えば伊豆方面） ・ 小型機用飛行場としてPRするイベントの開催

※ 回答件数16件（回答者属性：帰省利用客38%、ビジネス利用客：31%、観光利用客31%）

インタビュー等内容のまとめ（12/13）

- No. 5 その他；東京都島しょ振興公社、庁内関係部局、開発事業者、周辺事業者
 - 飛行場の特性を踏まえた取組や、周辺施設との連携についての意見表明

設 問	回答内容
1. 現状の飛行場に対する印象	・ 離島4空港への玄関口であり、離島への旅客定期便の運航拠点 ・ 歴史的経緯があり、これ以上多くを期待できる状況でないことを理解 ・ 現状、地域住民にとってあまりメリットがある施設ではない。 ・ あまり人が溜まっているイメージはない。 ・ ゆったりとした環境で、騒音苦情もあまり聞かない。地域社会に溶け込んでいるが、日常的に積極的に訪問する理由がない。
2. 調布飛行場に期待する役割、もしくは改善点についての意見	・ 離島航空路線の運航継続と、地域の理解を前提とした地域航空の拠点としての機能継続 ・ 東京都の東西の中央に位置するため、発災時の防災拠点としての役割に期待 ・ 地元市、島しょ町村、飛行場利用者や地元住民の幅広い意見を踏まえてニーズに即した整備を進めることで、多摩地域及び島しょ地域それぞれの振興が推進される。 ・ 近隣の公園などと飛行場とをうまく結びつけられるとよい。 ・ 飛行場を身近なものとしていくため、魅力的な施設を整備していく。その際、地域住民ファーストであるべき。 ・ 成田空港へのアクセス強化により、留学生や外国人材の利便性向上・受け入れ促進に期待

インタビュー等内容のまとめ（13/13）

・ No. 5 その他；東京都島しょ振興公社、庁内関係部局、開発事業者、周辺事業者

設 問	回答内容
3.調布飛行場を整備する際に実現してほしいと思うもの/こと	・ 発災時の対応指揮拠点を長期間運営できるよう設備（トイレ、キッチン、ベット、風呂）の充実と、必要な物資の備蓄 ・ 物資輸送訓練・検証の実施について検討してほしい。また、周辺住民に防災機能を周知し理解を得ることが重要 ・ リニア沿線地域からの集客を見込んだ鉄道駅からのバスアクセス強化 ↔乗務員不足もあり、特に朝夕時間帯の増便は難しいのが現状。周辺商業施設開業により、バス路線の見直しの可能性はある。 ・ 駅から離れた地域のバス利用者の減少を抑えるような取組 ・ 駐車場の利便性の向上 ・ かつて開催されていた飛行場まつりの際は、特産品（くさや）の実演販売が好評だった。そのような催事の復活や、日常的な販売があれば地域にも喜ばれるのではないか。 ・ 飛行場でイベントを実施する際には、周辺の各施設と連携し、巻き込むことで集客を行うべき。 ・ 近隣大学の共同ブースを設けて、研究成果の発信等の拠点とする。 ・ 離島の特産品や航空機など、調布飛行場の資源を生かせば、人が集まる商業施設も誘致できるのではないか。 ・ 再生可能エネルギーの設置ポテンシャルを最大限活用し、再エネの地産地消を推進

3. 全体の意見まとめ

全体の意見のまとめ（1/2）

分類	印象	期待する役割	改善点・要望事項 (ハード施策)	改善点・要望事項 (ソフト施策)
地元自治体	- 安全面に懸念 - 地域の理解・協力が必須 - 定期便をはじめ、緊急活動、航空測量など、地域航空の拠点	- 安全対策の強化 - 周辺地域との共生 - 島しょ及び立地地域の活性化 - 広域的な防災拠点	- 管制塔の機能強化（強靱化） - 防災拠点機能強化（災害対応用に地元市が利用可能な倉庫等の設置など）	- 安全・騒音対策の徹底 - 協定書・覚書の遵守 - 市民の交流・地域活性化のためのイベント開催
周辺住民	- 安全面に懸念 ⇒安全対策を進めてきた - 利用機会がない。地域と疎遠 ⇒ローカルで親しみある	- 安全対策の強化 - 島しょ地域への空の玄関口 - 身近な防災拠点 - 市民が楽しめる場所	- 災害対応用の倉庫等の設置 - 飲食店や島しょの特産品販売店などの利便施設誘致 - 地域向けの貸しスペース - 飛行機等を見て楽しむ空間	- 自家用機の分散移転 - 安全対策に関する説明 - 飛行場の見学・体験などの地域向けイベントの開催 - 飛行場まつりの再開 - 周辺施設と連携したイベント - 交通利便性の向上 (路線バス、駐車場の充実) - 路線の縮小⇒路線の拡大
空港管理・運用者	-	- 安全性の向上 - 地域へ親しみのある空間	- 管制施設の計画的な更新と機能強化（見通しの確保、仮眠室等の設置） - 安全設備の設置（格納庫） - 利用者利便施設（コンビニ、物産販売等）	交通利便性の向上（路線バス、駐車場の充実）

全体の意見のまとめ (2/2)

分類	印象	期待する役割	改善点・要望事項 (ハード施策)	改善点・要望事項 (ソフト施策)
空港利用者 (事業者等)	- 安全配慮が特に必要な空港 - 過去の経緯から運用に制限がある	- 地域航空の拠点 - 離島航空路線の拠点 - 自家用機の使用	- 災害に備えた食料・燃料の備蓄強化 - 安全性向上に向けた事業機用格納庫整備 - 定期便運航事業者の執務スペース拡大 - 利用者利便施設 (ATM、飲食、物販)	- 安全・騒音対策のための離陸滑走の延長運用 - 運用時間の制限緩和 - 交通利便性の向上 (路線バス、駐車場の充実) - 航空機使用事業者の事業内容展示
空港利用者 (定期便利用者)	-	-	利用者利便施設 (飲食、物販、コワーキングスペース)	- 交通利便性の向上 - 飛行場のPRイベント開催 - 離島以外への路線拡充
その他	- 離島への玄関口 - 現状、地域住民は利用していない	- 定期便の運航継続・地域航空拠点 - 防災拠点 - 身近な飛行場として魅力的な施設	- 発災時の対応指揮拠点としての機能強化 - 再エネ発電施設を設置し、再エネの地産地消の推進	- 交通利便性の向上 ⇔現状、バス増便は難しい - 周辺施設とも連携した、特産品の実演販売などのイベント開催

主な意見に対する対応

分類	意見	対応方針
安全性向上	・ 管制塔機能強化	・ 管制塔をはじめとする、老朽化した各施設を計画的に更新 ・ 各施設の更新の際に、施設の更なる強靱化を図る
	・ 格納庫の設置	・ 定期使用格納庫の整備（具体的なスキームは今後検討） ・ 事業機用格納庫の設置が可能となるよう、必要性があり適切に管理を行える事業者に対して空港用地の使用を許可
	・ 滑走距離延長運用	・ 滑走路の延長増は、地元三市との覚書に反し、また、現行の航空法施行規則の基準に適合するように着陸帯や制限表面を確保するのは困難 ・ 安全性向上につながる基準や運用指針の改定など、国の動向を注視
災害対応	・ 災害対応施設整備 ・ 備蓄増強	・ 各施設の更新の際に、施設の更なる強靱化を図る（再掲） ・ 人命救助活動や備蓄のための施設やスペースを整備/確保 ・ 備蓄増強のための具体的なスキームについては今後検討
利便性向上	・ 利用者利便施設	・ 飲食や物販機能などをターミナルに近接して整備を検討
	・ 交通利便性	・ 公共交通については、飛行場への移動需要喚起策の実現に合わせて今後検討 ・ 駐車場については、第一駐車場の収容台数を増強
広報	・ イベントの開催	・ 地域に開かれたイベントにより、飛行場の見学・体験の機会を確保 ・ 島しょ物産展を継続的に開催するとともに、更なる取組を検討
その他	・ 再エネ発電	・ 航空の安全を確保した上で、順次整備を検討
	・ 定期便運航事業者執務スペース確保	・ ターミナル内、定期使用格納庫内に整備を検討
	・ 騒音対策	・ 防音壁の効果を持たせた建物を連続的に配置
	・ 定期便路線の縮小/拡大	・ 現在運航している4路線は島民生活に必要であり、運航を継続 ・ 都市間路線や羽田、成田両空港へのアクセスは、安全・騒音対策の実施を前提に、地域からも必要との要望が大きくなった段階で検討
	・ 自家用機分散移転	・ 引き続き移転交渉を進める